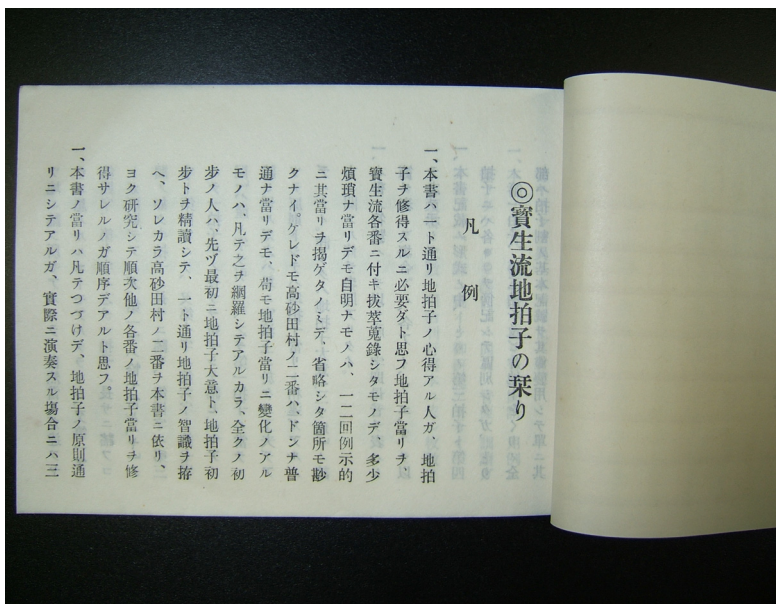


## 菊池寅七 『宝生流地拍子の栞り』

三部からなる。第一部「地拍子大意」では、地拍子の基本概略。さらに応用として「ツツケ」謡、「三ツ地」謡が詳しく論じられる。説明が「コス三ツ地」にまで及ぶのは、従来にはない親切さであろう。第二部「地拍子初歩」は、ロンギヤクセ等十曲の割付を示す。第三部「地拍子の栞り」は、写真下の凡例に続いて、二百曲強の地拍子が載せられる。最初の高砂と田村の二番については、拍子に合う箇所全体を載せ、他は当りの難しい箇所だけにしぼって掲載する。



標題 内題…宝生流地拍子の栞り

標題紙…宝生流地拍子の栞り

奥附…

その他…宝生流地拍子の栞り(目次)、地拍子の栞り(目次)、宝生流地拍

子乃栞(題簽)

子乃栞(題簽)

著者 奥附…

その他の場所…菊池寅七(跋)

出版 版次…第一版

出版地…不明

出版社…不明

出版年…

その他の場所…跋・送状 昭和11(1936)

形態 冊数…一冊 頁数…二七頁(附録)

十三五四頁(本文)

寸法…13×19(cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 中野若水(序・送状)は校閲者。非売品。